

VI. 出雲市体育協会の現状について

配布対象：出雲市内全ての体協支部及び地区体協 48 団体

配布時期：令和 3 年 1 月 2 5 日 回答期限：2 月 1 7 日

回答団体：40 団体（回答率：83.3% 参考：前回 73.8%）

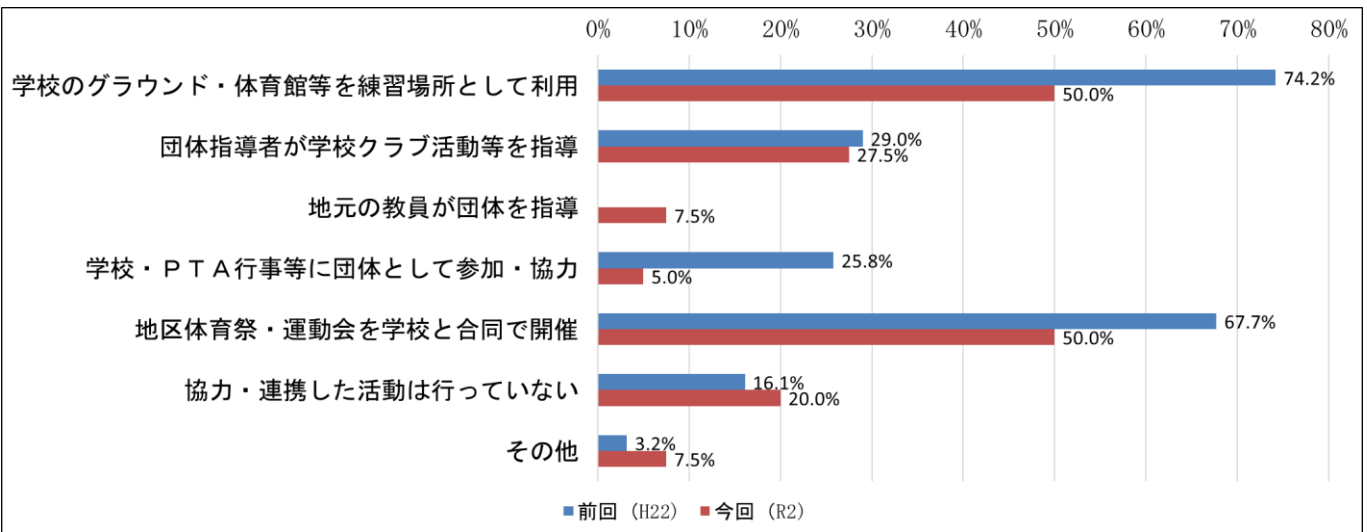
1. 活動状況について

(1) 各団体で主催する講習会、研修会、スポーツ教室について

項 目		今回調査		前回調査		比較増減
①各団体で主催する講習会・研修会	実施している	1 団体	2.5%	5 団体	16.7%	△14.2%
	実施していない	39 団体	97.5%	25 団体	83.3%	14.2%
【実施内容】・ラジオ体操講習会						
②各団体で主催するスポーツ教室	実施している	7 団体	17.5%	7 団体	22.6%	△5.1%
	実施していない	33 団体	82.5%	24 団体	77.4%	5.1%
【実施内容】・卓球・シーカヤック・ゴルフ・相撲・スポーツ吹き矢等ニュースポーツ						
③各団体で主催する大会	実施している	37 団体	92.5%	30 団体	96.8%	△4.3%
	実施していない	3 団体	7.5%	1 団体	3.2%	4.3%
【実施内容】・体育祭・スポレク祭・各競技（ニュースポーツを含む）の地区内大会等						

【・講習会等：2 ・スポーツ教室：16 ・大会等：298】

(2) 学校活動と協力・連携した活動について



(その他)

- ・地区体育祭開会式への吹奏楽部の参加協力依頼
- ・地区内小学校の任意団体（ゲートボール等）の支援をしている。
- ・地区体育祭に主催者側の手伝いをお願いしている。

(3) 学校活動と協力・連携していない8団体への質問

- ・学校との協働・連携ができない理由

項 目	今回調査		前回調査		比較増減
1. 学校の理解が得られない	1 団体	12.5%	0 団体	0.0%	12.5%
2. 学校が地域活動に協力的でない	1 団体	12.5%	1 団体	20.0%	△7.5%
3. 協力・連携するメリットがない	0 団体	0.0%	0 団体	0.0%	0.0%

4. その他	6 団体	75.0%	4 団体	80.0%	△5.0%
(その他) ・スポレク祭への参加について小学校の協力が少ない。 ・小学校が二つの地区で構成されているため ・小学校が廃校となり活動が行えなくなった。 ・補助事業の対象とならないため。 ・休日の活動となり共同で行いにくい。 ・学校がない。					

●全体としては、学校との連携は減少している傾向があります。今後は、部活の外部指導者の拡大に伴い連携の必要性について検討が必要と思われます。

(4) 障がい者のスポーツ活動の推進について

① 障がい者のスポーツ活動推進に向けた取組について

1. 行っている	2 団体	5.0%	・ボッチャ体験・選手へのサポート
2. 行っていない	38 団体	95.0%	

② どのような障がいをお持ちの方に対して取組を行っているか

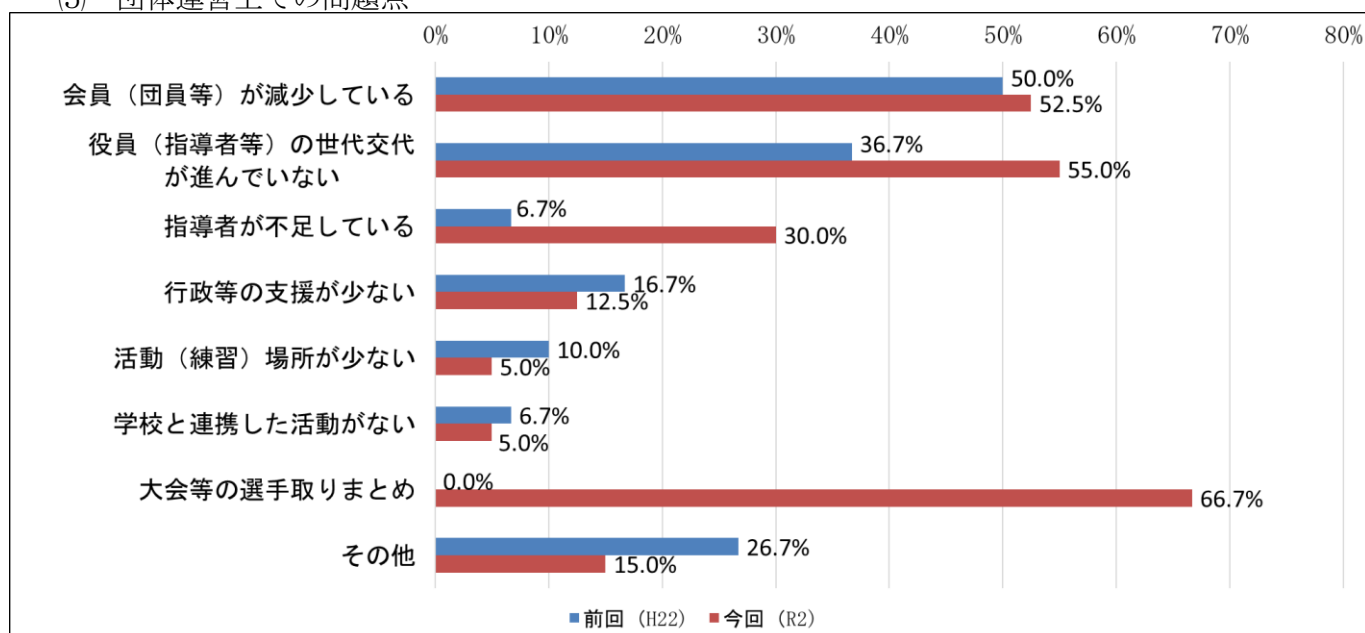
1. 知的	0 団体	0.0%
2. 精神	0 団体	0.0%
3. 身体	2 団体	100.0%

③ 障がい者のスポーツ活動について、相談できるところ

1. ある	8 団体	20.0%	・出雲市身障者福祉協会・スペシャルオリンピックス日本島根・障がい者スポーツ協会・出雲市社会福祉協議会・地区の障がい者協会・社会福祉法人ひらた福祉会
2. ない	32 団体	80.0%	

●障がい者スポーツへの関わりが少ない現状であり、取組を進めるための検討が必要と思われます。

(5) 団体運営上での問題点



(その他)

- ・高齢化

- ・若い方との接点が不足であり、各町内間でもまとまりができていないことから脱退される。
 - ・自治協会加入者の区別をしながら参加の取りまとめ。
 - ・体協行事の意義への疑問や、これまでどおりのやり方で良いのかという議論あり。
 - ・自治会対抗で参加チームの減少
 - ・各自治会対抗の大会において、参加自治会が減少している。
- 選手の取りまとめが一番の問題点となっています。また、世代交代が進んでいない団体が多くあり、前回よりも増加しています。体制の見直しを検討する必要があると思われます。

(6) 団体運営上工夫されていることや今後に向け検討されてこと

- ・各団体においては、運営に関する経費を確保するため、個人より部費を徴収している。
- ・現高齢役員と若い役員との価値観のズレが大きい。諸処の大会案内などを学校、保育園経由で配布する予定。(回覧書が家庭で確認されていない)
- ・体育祭の有無及び町内単位の競争する様な方法は徐々中止し、オープン参加方式に切り替えた競技を行う予定
- ・15地区の中で特定の地区が選手確保が困難で、地区行事に参加できないのが課題
- ・自己完結型でないと無理。道具等
- ・年齢・男女関係なく参加できる競技に変更。野球⇒ソフトボール、バレーボール⇒ソフトバレーボール、軽スポーツ大会（ペタンク大会）
- ・役員の世代交代
- ・誰もが参加しやすい競技等、参加者が増えるイベント、競技種目を検討している。
- ・コロナ禍での新たな事業運営について、体協理事会で協議をしていく必要があります。根本的に取組の見直しが必要であると考えます。
- ・継続的に活動が維持できるよう世代交代をし、若年層の入団を進めている。女性団員を増やすよう努めている。
- ・地区住民全体が体力向上、健康になることができるような活動があると良いと考えています。・高齢化の著しい地区なので、フレイル予防も
- ・体育祭の時間短縮、競技の見直し
- ・本部役員の減員。各町内選出の体育委員の見直し（令和4年度からの改正に向け検討中）
- ・体協は何をする団体か、地区民は何を望んでいるのかなどを整理し、これまでどおりのやり方ばかりではなく、全く新しい視点からの体協運営を考えたい。
- ・役員に地区による偏りがないようにする事。会長・副会長を同じ地区から連続して選ばない事。
- ・体協事業は参加者を減らし対策して行う。また、広報など使い自主的参加申込などの取組をする。
- ・町民体育大会以外では地区住民が一同に会する場がないために、地区役員を通してできるだけ多くの参加者を集めてもらうようお願いしている。競技内容も幅広く参加しやすいものに工夫している。
- ・参加しやすいように種目別大会の種目を変更した。
- ・地区の人口減少や高齢化により、役員などの担い手の負担が大きくなってきているため、負担軽減が図れるよう体協の運営を行っていきます。
- ・事務局のほか、競技種目毎に専門部を設け大会運営の負担（労力）を分散させている。
- ・各自治会がスポーツ及びレクリエーション大会を行った場合、5,000円の助成金を出している。
- ・高齢者でもできるようなニュースポーツの取入れも検討している。

●競技内容の見直し等の改革や新たな取組について検討している団体が多くみられます。

(7) 新型コロナウイルス感染症の影響について

全て中止	16 団体	40.0%
一部中止（縮小開催含む）	22 団体	55.0%
記載なし	2 団体	5%

●ほぼすべての団体で影響を受けており、今後も感染症対策を行いながらの活動方法について検討していく必要があります。

2. 全市を対象としたスポーツ大会について

(1) 全市域を対象とした地域対抗のスポーツ大会の実施について

項 目	今回調査		前回調査		比較増減
1. 実施したほうがよい	15 団体	37.5%	14 団体	45.2%	△7.7%
2. 実施しなくてもよい	25 団体	62.5%	17 団体	54.8%	7.7%

(2) 実施したほうがよいと回答された15団体への質問

A. 地域対抗はどの範囲が妥当か

項 目	今回調査		前回調査		比較増減
1. 支部対抗	5 団体	33.3%	1 団体	7.1%	26.2%
2. 中学校区対抗	5 団体	33.3%	5 団体	35.7%	△2.4%
3. 地区対抗	4 団体	26.7%	8 団体	57.1%	△30.4%
4. その他	1 団体	6.7%	0 団体	0.0%	6.7%
(その他)・地区内の町別対抗					

B. どのような大会が考えられるか

項 目	今回調査		前回調査		比較増減
1. 体育祭・運動会等の共通種目による市民総合体育祭	5 団体	33.3%	3 団体	21.4%	11.9%
2. 複数の競技種目の地域対抗戦を実施し、通年で総合得点を競うスポ・レク祭	6 団体	40.0%	6 団体	42.9%	△2.9%
3. 特定の種目による地域対抗大会	2 団体	13.3%	7 団体	50.0%	△36.7%
(駅伝カーニバルの拡大開催、軟式野球)					
4. その他	1 団体	6.7%	0 団体	0.0%	6.7%
(その他)・地区対抗が理想であると思いますが、現状ではスポレクでも不参加種目もあり、足並みが揃っていない、地区間格差があります。					

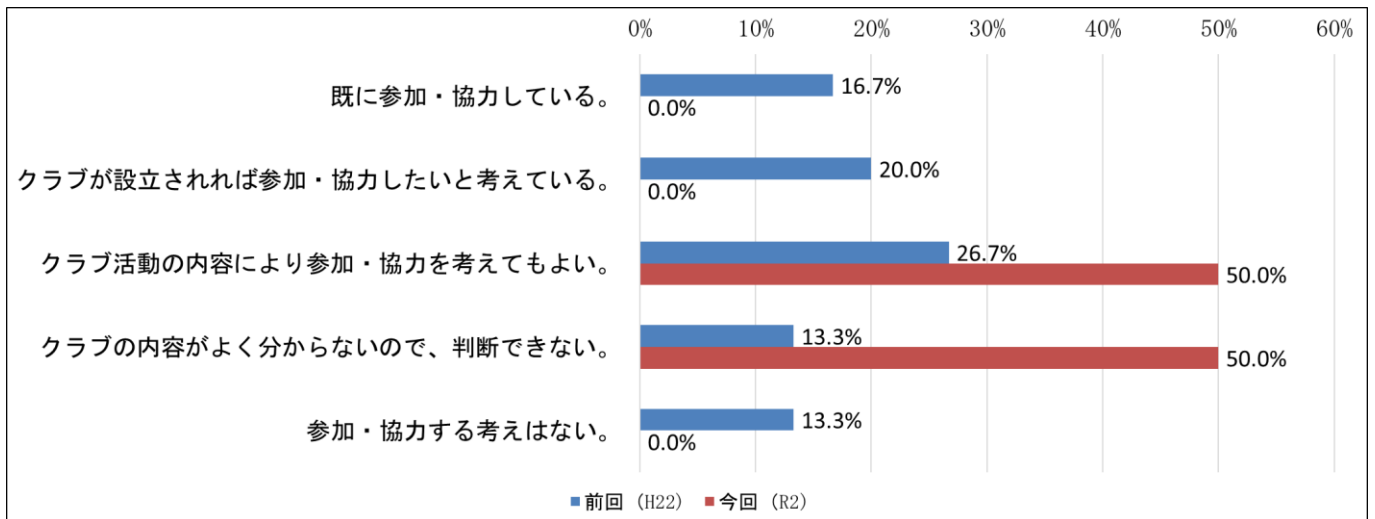
●実施する場合は、通年で総合得点を競うスポ・レク祭を考えている団体が4割を占めました。

(3) 実施しなくてもよいと回答された団体を対象にその理由は

項 目	今回調査		前回調査		比較増減
1. 代表選手の選考や調整が困難	21 団体	84.0%	15 団体	88.2%	△4.2%
2. 役員等の派遣があると負担が増える	11 団体	44.0%	6 団体	35.3%	8.5%
3. その他	8 団体	32.0%	2 団体	11.8%	20.2%
(その他)・地区内の町別対抗					

●6割を超える団体が開催に否定的であり、その要因として選手選考や、負担増を要因とした団体が6割以上を占めました。

3. 総合型地域スポーツクラブについて



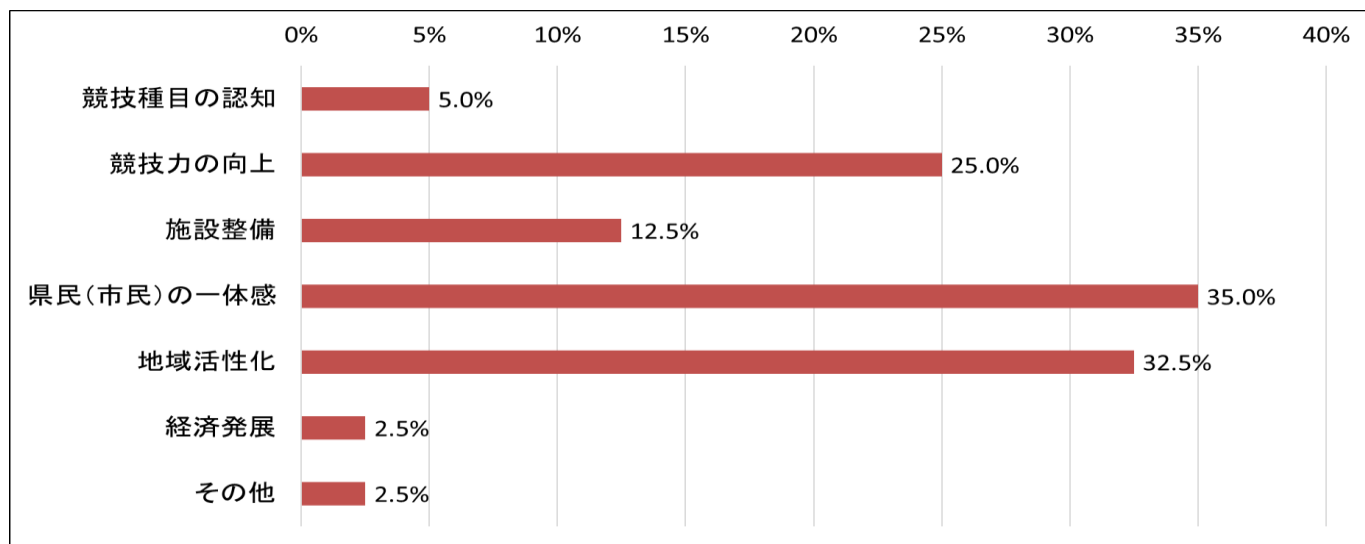
4. 今後、市内で開催してほしいスポーツイベントについて

種 目	大会・イベントの内容
—	子ども、保護者が参加する競技を実施し盛り上がる喜びとスポーツに対する認知向上であれば種目にはこだわらない（誰でもできるスポーツ）
ソフトボール	リーグ戦の第○節
—	車いすの参加できるマラソン等
陸上	小中学生を対象とした陸上教室（一流の指導者・選手を招き、定期的な陸上教室の開催）走ることはすべてのスポーツ競技につながるため
ピックルボール、スポーツ吹き矢	シニアから大人、小人まで健康増進の為に取組みやすいニュースポーツを普及させ大会を開催して欲しい。吹き矢に関しては、車いすなどの障がい者と健常者が共通ルールで協議でき取組みやすい。
—	老若男女が参加しやすい種目
—	一流選手等による講演会、指導
野球	市内全域の地区対抗野球大会、プロ野球オープン戦、公式戦
グランドゴルフ、カローリング	カローリング大会
ニュースポーツ	様々なニュースポーツの紹介や講習会を市全体で開催し、各地区体協単位で取入れられるような仕掛けづくりを考えて欲しい。

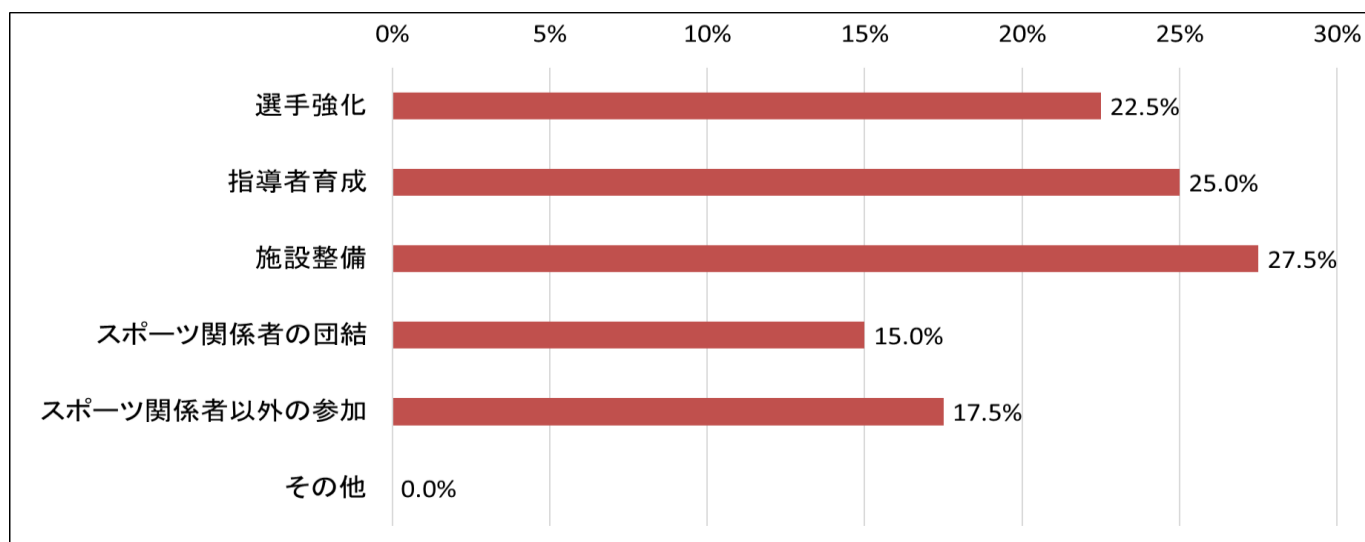
●多様な年代が参加できる大会の実施を求める声が多くありました。

5. 令和 12（2030）年開催予定の島根県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について

(1) 最も期待すること

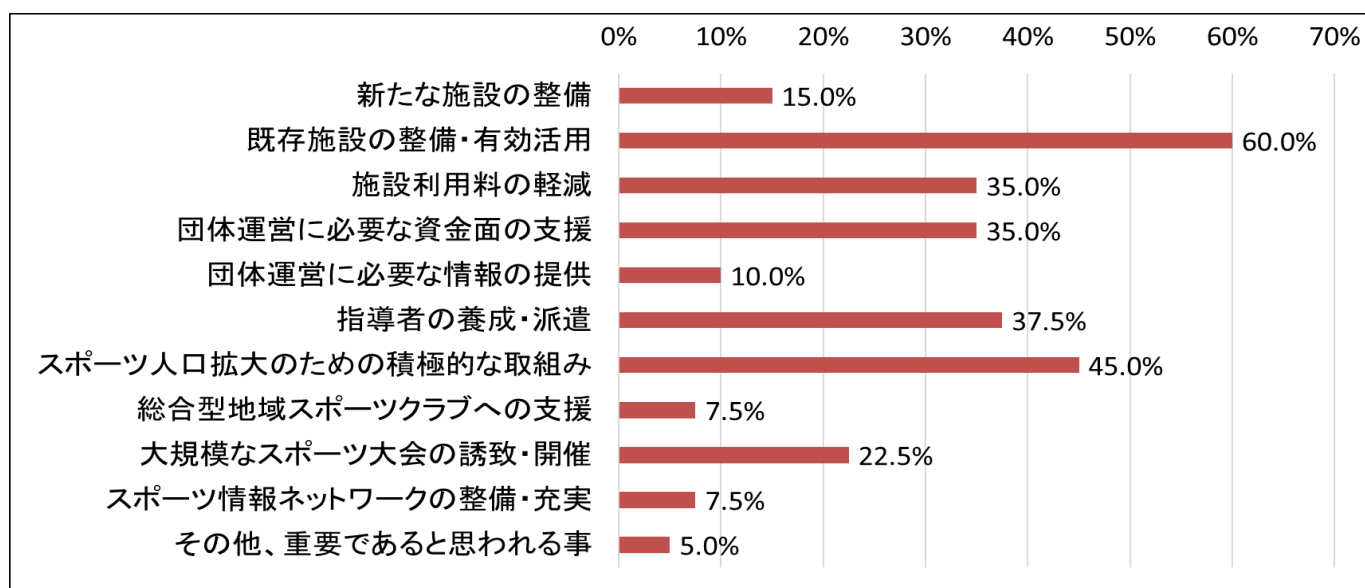


(2) 最も実施すべきこと



6. スポーツの振興について

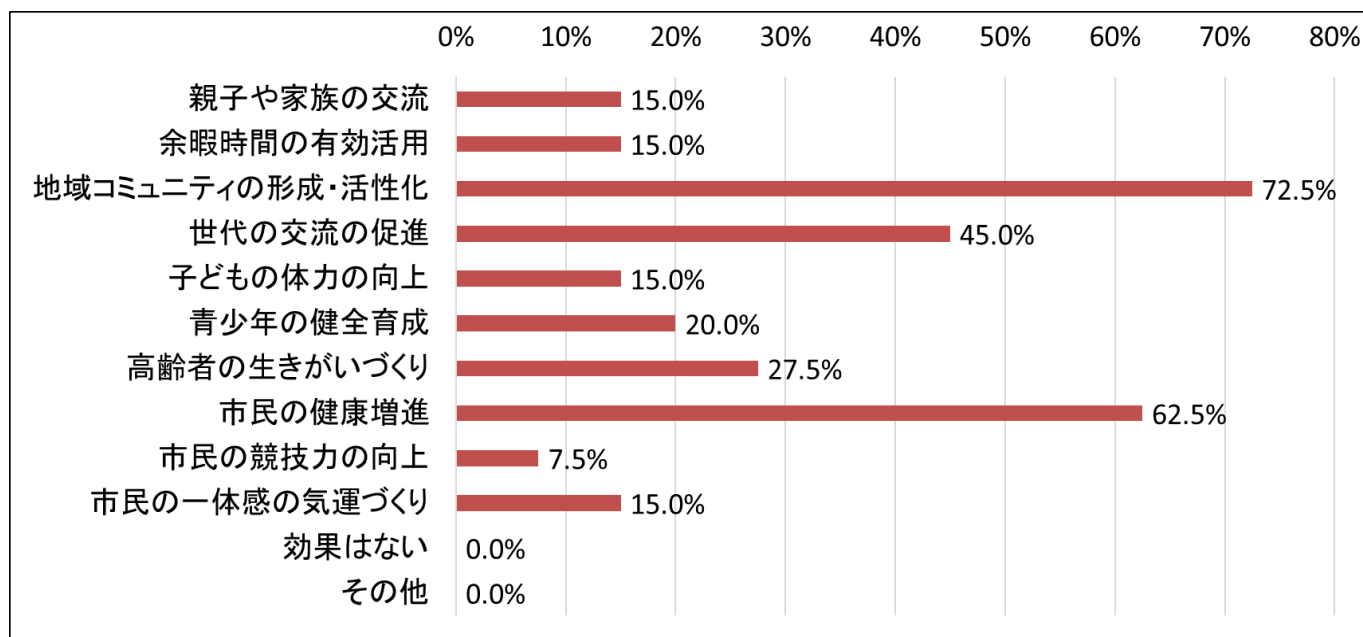
(1) スポーツ振興に重要なこと



(新たな施設の整備)

- ・フットサル専用コート ・武道場等 ・体育館 ・主に市民が使用できる施設
(その他)
- ・青少年が社会人になった時に、急にスポーツ離れが進むので、その対策が必要だと思います。
- ・生涯スポーツの更なる普及に力を入れること

(2) スポーツ振興による効果



7. 市のスポーツ行政や体育協会本部に対する意見・要望等

- ・スポーツ大会、行事の今以上の広報、PR 活動
- ・青年部の意見考えを最大限に考慮した大会運営をしなければ離れていく（個人主義、個人競技的活動に向かう）
- ・スポーツ活動をする人口、体力などの把握
- ・体育協会の名称をスポーツ協会に変更すれば一般市民も馴染みやすくなるのでは。
- ・少子高齢化により出雲支部大会の選手選考に苦勞している。女性の選考が特に難しい。
- ・出雲支部スポレク祭の中止
- ・年 1 回講演会の開催を計画している。講師と謝礼に苦勞している。ある程度有名な方を安価で紹介して欲しい。
- ・アンケートがわかりにくい、来年度からは今一度検討願いたい。
- ・以前スポーツ 21 で展開されていた、新しい競技種目を紹介されたりして幅広い人が参加されると聞きましたが、そういう機会を利用して新しい取組のきっかけや交流等や情報源が収集されたいと思います（地区での開催を！）
- ・体育協会本部に対し、各地区体協の活動状況の情報が知りたい。各地区の体協間の交流や情報共有を図り、参加する市民の拡大方法等、課題の洗い出しから、目標設定を議論したい。
- ・体育施設が一極に集中しないように。支部事務局をコミセンで対応する。これにより効果的な体育事業が展開できる。

●以上のような意見要望がありました。情報の提供や共有を求める声が多くありました。更なる情報発信等が必要と思われます。

Ⅶ. 出雲市体育協会【加盟種目団体】の現状について

配布対象：出雲市体育協会加盟の全ての種目団体 42 団体

配布時期：令和 3 年 1 月 2 5 日 回答期限：2 月 1 7 日

回答団体：24 団体（回答率：57.1% 参考：前回 39.5%）

1. 活動状況について

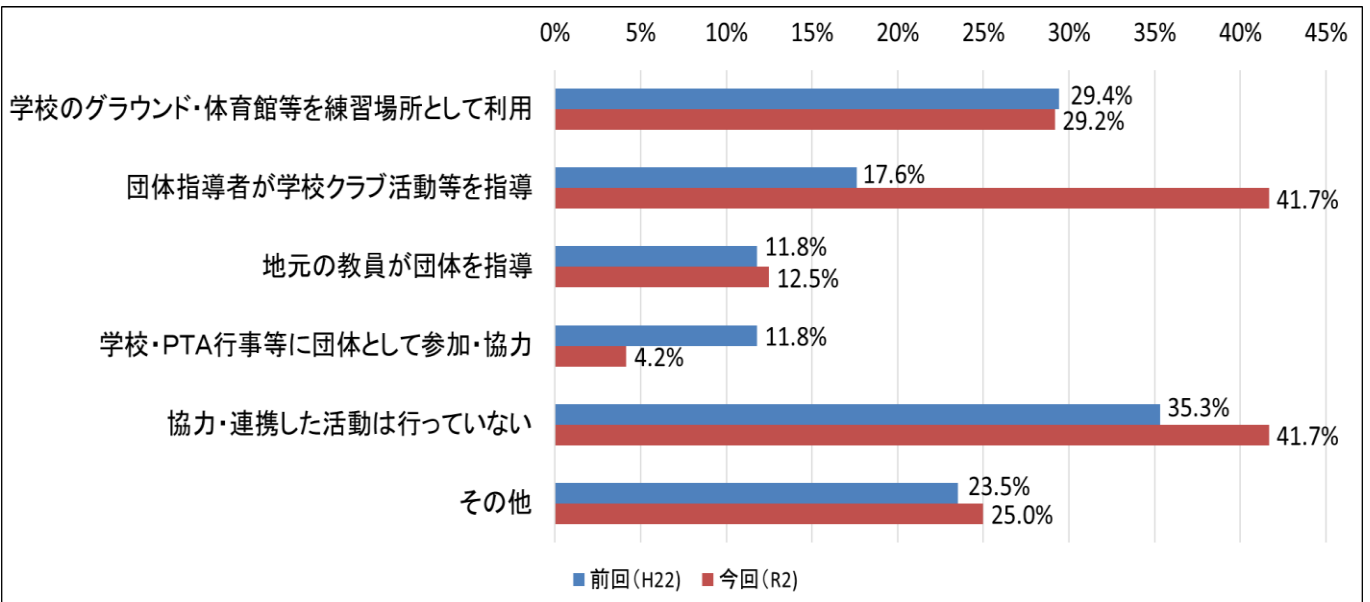
(1) 各団体で主催する講習会、研修会、スポーツ教室について

項 目		今回調査		前回調査		比較増減
①各団体で主催する講習会・研修会	実施している	4 団体	16.7%	10 団体	58.8%	△42.1%
	実施していない	20 団体	83.3%	7 団体	41.2%	42.1%
【実施内容】						
②各団体で主催するスポーツ教室	実施している	5 団体	20.8%	10 団体	58.8%	△38.0%
	実施していない	19 団体	79.2%	6 団体	35.3%	38.0%
【実施内容】						
③各団体で主催する大会	実施している	20 団体	83.3%	17 団体	100.0%	△16.7%
	実施していない	4 団体	16.7%	0 団体	0.0%	16.7%
【実施内容】・						

【・講習会等：3 ・スポーツ教室：8 ・大会等：147】

●前回調査より実施率が下がっています。会員の減少等も要因と思われます。

(2) 学校活動と協力・連携した活動について



(その他)

- ・市内の中学生を集めて練習会を実施
- ・教室チラシ配布
- ・学校クラブが団体に会員登録
- ・大会として年に 5 回（中学生）1 回（高校生）開催している。
- ・要望があれば体験会を行っている。
- ・福祉施設への慰問（発表）

●団体指導者が指導する率が大きく増加しています。部活動の外部指導者の導入が進んでいると思われます。

(3) 学校活動と協力・連携していない10団体への質問

・学校との協働・連携ができない理由

項 目	今回調査		前回調査		比較増減
1. 学校の理解が得られない	2 団体	20.0%	1 団体	25.0%	△5.0%
2. 学校が地域活動に協力的でない	1 団体	10.0%	1 団体	25.0%	△15.0%
3. 協力・連携するメリットがない	1 団体	10.0%	1 団体	25.0%	△15.0%
4. その他	6 団体	60.0%	1 団体	25.0%	35.0%
(その他) ・学校から希望がない ・つながりそのものが現段階無い ・協力・連携できる活動があるかもしれないが、そうした動きをする者がいない。 ・こちらからアプローチしていない。 ・時々市内の高校に出向いて指導することがあるが、高校の部活の時間帯や練習期日が合わないことが多く、連携が十分とれていない。					

(4) 障がい者のスポーツ活動の推進について

① 障がい者のスポーツ活動推進に向けた取組について

1. 行っている	4 団体	16.7%	・大会に参加してもらっている。 ・卓球大会の運営に協力している。 ・イベントの参加 ・精神障害の適応内で気功・太極拳の運動療法
2. 行っていない	20 団体	95.0%	

② どのような障がいをお持ちの方に対して取組を行っているか。

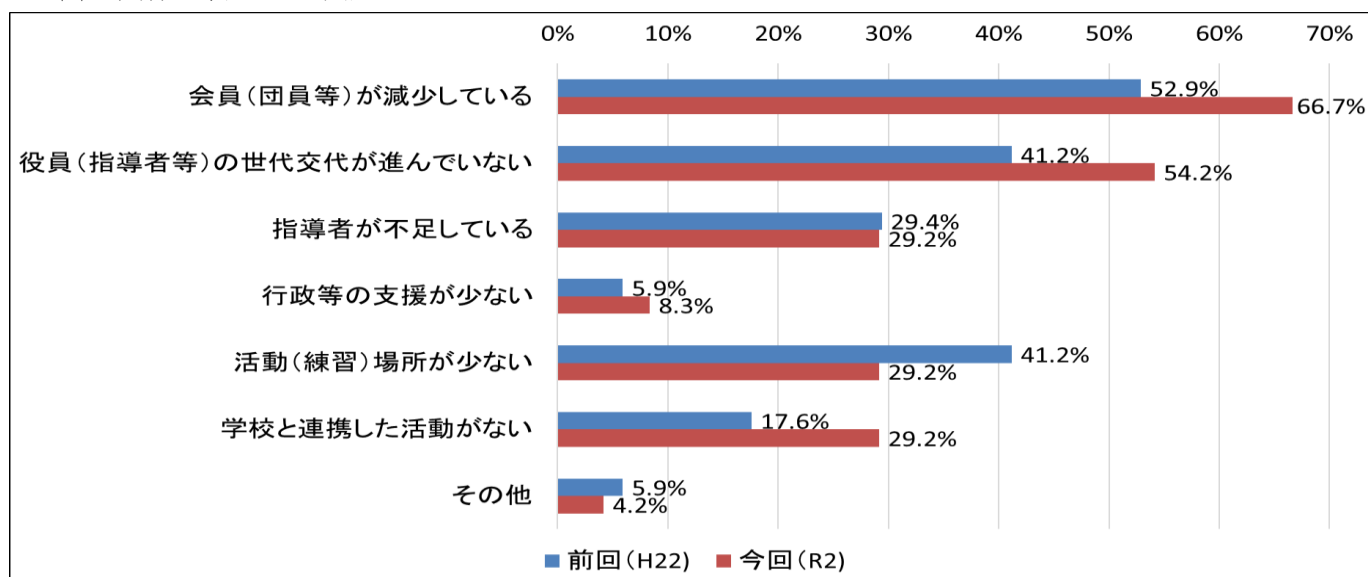
1. 知的	2 団体	50.0%
2. 精神	2 団体	50.0%
3. 身体	3 団体	75.0%

③ 障がい者のスポーツ活動について相談できるところ

1. ある	6 団体	25.0%	・サン・アビリティーズいずもの管理の方・公益財団法人日本サイクリング協会・指導員・島根県障がい者スポーツ協会・障がい者の会員
2. ない	14 団体	58.3%	

●障がい者スポーツへの関わりが少ない現状であり、取組を進めるための検討が必要と思われます。

(5) 団体運営上での問題点



(その他)・大会等の準備の場所、備品の保管場所がない。

- 会員の減少や世代交代が進んでいない団体が多くあり、前回よりも増加しています。スポーツ離れが進んでいるか、協会未加入の団体又は個人での活動に移行している可能性が考えられます。

(6) 団体運営上で工夫されていることや今後に向け検討されてこと

- ・協会主催の練習会を毎週行い、どなたでも参加できるようにしている。ジュニアの育成にも力を入れている。
- ・役員の確保を今後どのようにしていくのか、検討が必要と考える。
- ・島根県連盟と連携して活動している。
- ・団体の対抗戦の人数を少人数にして参加しやすいようしています。
- ・県、競技団体（県の連盟）クラブ保護者会、施設との連携
- ・マイボール制による感染対策。ポイントランキング制の導入
- ・会員が高齢者（70 以上）が半数ぐらいになるので、高校卒業者が一般で地元に残り活動しやすくなる環境づくりを検討している。
- ・免疫力向上部門の充実
- ・練習メニューに様々な種目を取り入れること。
- ・大会開催場所の変更（新型コロナウイルス感染症の対策が一通り整えられている施設）
- ・1 階と 2 階の交流をしない（選手と応援）応援の保護者人数制限
- ・小学校体操競技大会の廃止や中学校部活動体操部の廃部等により競技人口の減少が顕著となっている。底辺拡大を図るため、幼児、小学校低学年を対象にキッズ体操体験デーと市内で活動している体操クラブの発表の場を提供するため、ジュニア体操競技大会を開催している。（市体協スポーツ大会補助事業）
- ・スポーツ教室の開催を検討

(7) 新型コロナウイルス感染症の影響について

全て中止	6 団体	25.0%
一部中止（縮小開催含む）	13 団体	54.2%
記載なし	5 団体	20.8%

- ほぼすべての団体で影響を受けており、今後も感染症対策を行いながらの活動方法について検討していく必要があります。

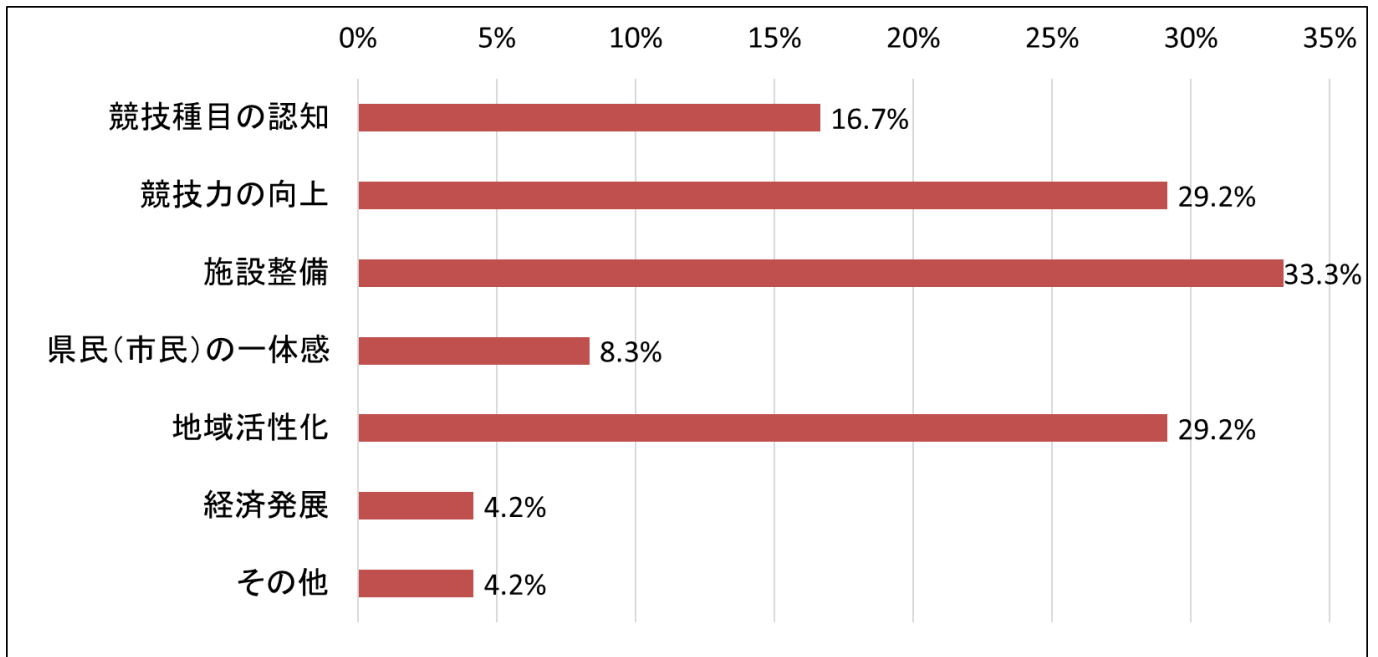
2. 今後、市内で開催してほしいスポーツイベントについて

種 目	大会・イベントの内容
バドミントン	2030 年国民体育大会のバドミントン競技
バレーボール	V プレミアリーグ選手の指導（少人数でも可）
テニス	プロテニス選手をゲストとして招いてエキシビジョンマッチや指導を受けられるようなイベント
ソフトテニス	実業団との交流大会など
ラグビー	代表選手を招いたスポーツ体験（誰でも参加できるもの、特定の競技者のみ対象としないもの）

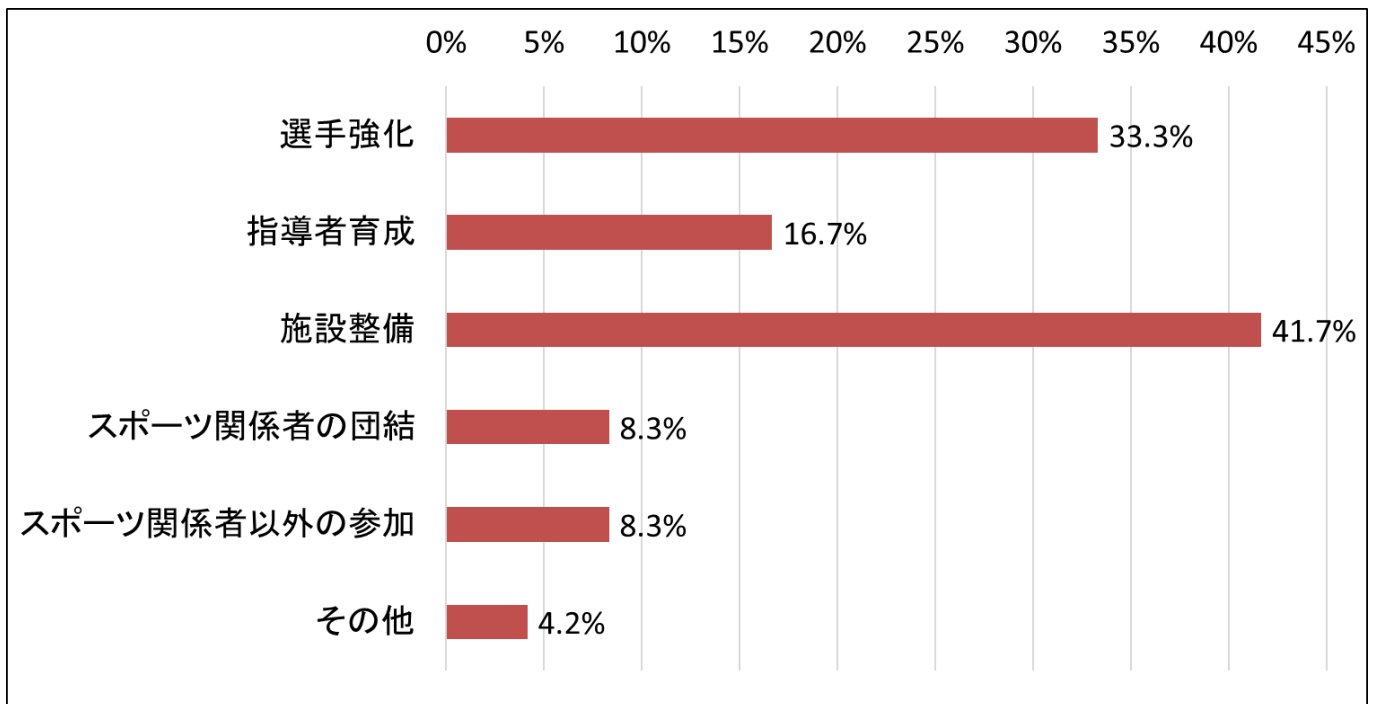
- トップアスリートを招いてのスポーツイベントを望む声が多くを占めました。

3. 令和 12（2030）年開催予定の島根県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会について

(1) 最も期待すること



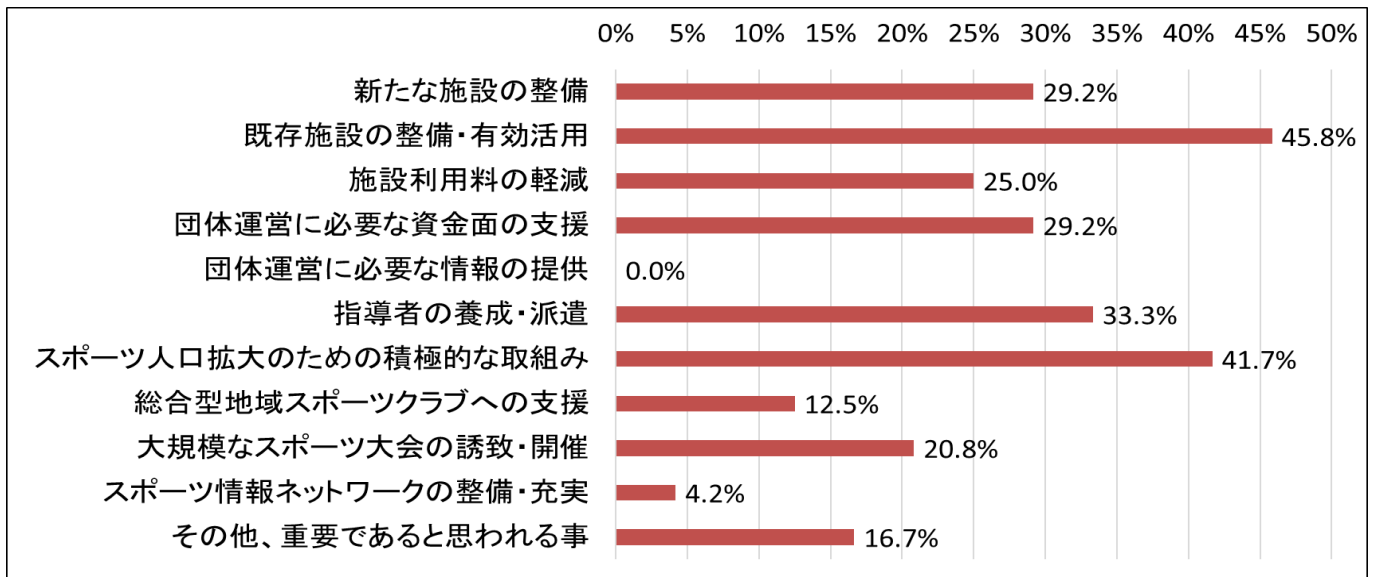
(2) 最も実施すべきこと



●施設整備と競技力向上が強く求められています。また、地域活性化につながるとの意見も多くありました。

4. スポーツの振興について

(1) スポーツ振興に重要なこと



(新たな施設の整備)

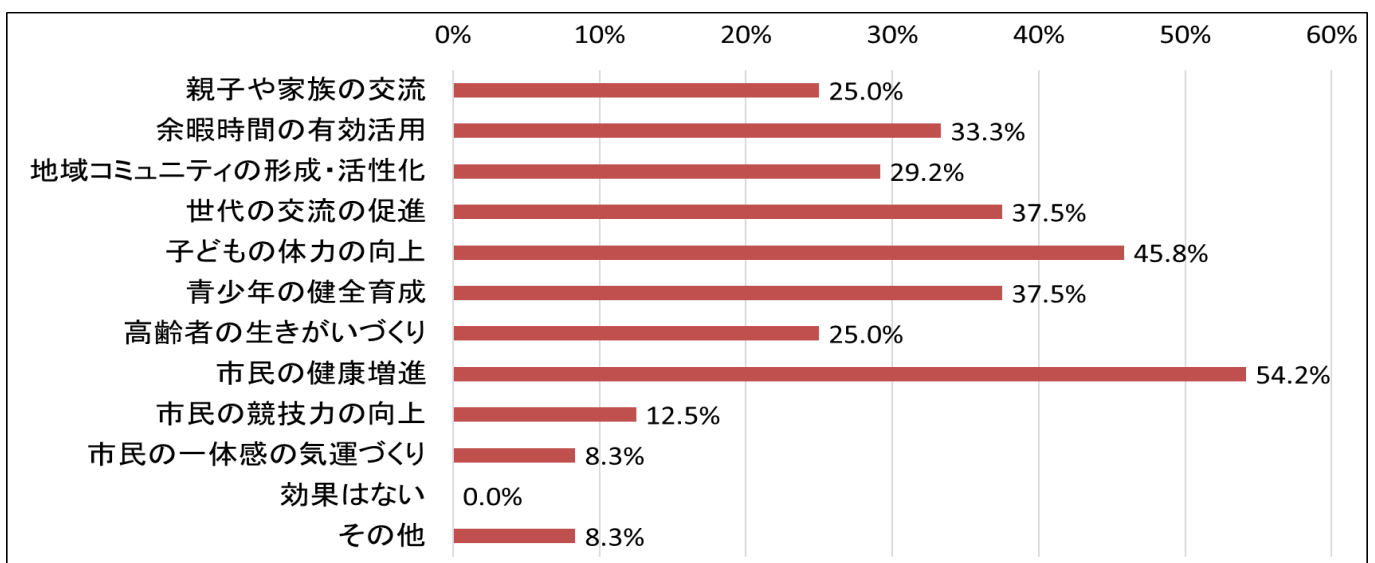
- ・体育館（3団体） ・天候に左右されない屋内施設 ・宿舍 ・50m 公認プール
- ・体操競技専用の練習場
- ・フリーウエイト（バーベルなど）が使用でき、重りをつけて頭上から床に落としても問題ない施設

(その他)

- ・小・中学生の部活動（社会体育）の充実。出雲市体育協会の法人化。スポーツ団体が活動できる事務局等の充実。
- ・施設管理面でオンライン予約やキャッシュレス決済の推進
- ・医療との連携による中高年の健康増進、免疫強化等、県・市の実態に則したスポーツ貢献、少年の身体健全育成。以上の支援
- ・競技に必要なとなる用具、器具、備品の整備

●既存施設の整備や有効活用、スポーツ人口の拡大を図っていく必要があると考えられています。

(2) スポーツ振興による効果



●市民の健康づくりや子どもの体力向上等多様な効果があると考えられています。

5. 市のスポーツ行政や体育協会本部に対する意見・要望等

- ・市内スポーツを行う環境は良いものがあると思います。ただ、各種目団体が活動する場所がありません。体育協会事務局とか、大会、講習会等の準備をする場所、プログラム等を作る印刷機等の出来る場所が欲しいです。そこに各種目団体の人達が集まり、備品等の保管も出来ればいいと思います。
- ・施設は、体育館だけでも市内の指定管理されていますが、すべて違うルールで管理されていたり、お互いの交流情報管理などなく、もう少し統一した管理をお願いしたい。また、備品の管理が悪くネットが無かったり、壊れもそのままの施設が多い。
- ・競技によっては、好成績をおさめる個人や団体もある。もっとそういった方の力を伸ばしてあげたい。また、小・中くらいから競技力の向上のプログラムがあると良いのでは。
- ・①湖遊館については山陰唯一の施設である。松江雲南他、県外からの利用もある。県レベル、広域的な支援体制の構築が必要。
②スケート競技は学校に部活動が無い、地元の貴重な資源（湖遊館）の活用のための部活動化、あるいは社会体育としてのスケートの学校における認知など、市教委との連携
- ・コロナによるキャンセル料が無料になり助かった。県の施設は有償となり負担が大きかった。半面で大会を開催する場合料金を半額にして欲しい。
- ・いつもご支援ありがとうございます。成果を得るよう努力いたしますので、一層のご指導をよろしくお願いいたします。
- ・指導者のモラル向上が必要なので「モラル研修」が必要と思います。
- ・3年前小体連行事が殆ど中止となった。これまで多くの児童が体験してきた運動文化が特定の子ども（スポ少、スポーツクラブ）以外の子どもには提供されなくなった。今後、出雲の子どもの体力は、親の経済状況によって、大きく差が表れてくるだろう。小体連が自爆したと言わざるを得ない。
- ・【新体育館について】
 - ①基本計画では、使用頻度の高い種目で検討されているが、従来の出雲体育館は体操競技の器具が無いため体操競技団体の大会や教室では使用したくても使用できないのが現状。
 - ②男女10種目の器具の設置、設置が可能となる床面金具の設置、器具庫は器具収納可能な広さと入口扉の確保
 - ③フリーウエイト（バーベルなど）が使用でき、重りを付けて床に落としても問題ない施設が出来れば、高重量を扱う競技でなくても思い切ってトレーニングすることができ、様々な競技の競技力向上につながると考えられる。

●以上のような意見要望がありました。施設の関連が多くありましたが、子どもたちからのスポーツへの関わりに関するもありました。